

【治安対策】

近年、特別区においては、危険ドラッグに起因する犯罪や子供を狙った犯罪など、区民に不安を与える犯罪が多発しています。
こうした不安を区民に感じさせる特別区の課題を説明した上で、
区民が安心して暮らせる地域社会を実現するため、
特別区の職員としてどのように取組むべきか、あなたの考えを論じなさい。

【答案例】

近年、わが国における犯罪認知件数は減少傾向にある。しかし、特別区においては、危険ドラッグに起因する犯罪や児童誘拐事件などが多発しており、区民の行政に対する安全・安心を求める声はいまだに根強い。実際、東京都が実施する世論調査では、ここ数年、要望事項の上位に「治安対策」があがっている。

こうした不安を区民に感じさせる特別区の課題としては、「都市環境」と「地域コミュニティの希薄化」の二つが挙げられる。

まず、都市環境についてであるが、特別区には、込み入った住宅街や空き屋化した雑居ビルなど、犯罪の死角となり易い場所が数多く存在する。また、特別区のような大都市では、人の転出入が激しく、地域において他者との持続的な関わりをもつことは難しい。そのため、地域コミュニティが希薄化し、犯罪者が地域社会に入り込んでいても発見や通報が遅れてしまい、犯罪が発生しやすい状況が生まれているのである。

では、区民が安心して暮らせる地域社会を実現するため、特別区の職員としてどのように取組むべきか。上述の課題を踏まえ、私は「犯罪に強い都市環境の整備」と「地域コミュニティの強化」が重要であると考えている。以下、この二点について論述する。

まず、犯罪に強い都市環境の整備について述べる。都市環境を改善するには、まずは区民が不安を抱いている場所を把握する必要がある。そこで、特別区の職員は、SNS等を活用し、積極的に区民と意見交換を行っていくべきである。そして、危険と判断された場所には、見通しをよくするため、防犯ミラーや街灯を設置し、また、より危険度の高い場所には防犯カメラの設置を検討していくべきである。例えば、江戸川区では、地域住民と協働して「安心して歩ける道づくり」に取り組んでいる。これは、区民が日常的に利用する道路を対象に、道路上の死角除去、街路灯の照度改善などを行い、犯罪に強い環境整備を進め